

# Sun Cobalt™ コントロールステーション

---

Software Management モジュール



Copyright © 1997-2002 Sun Microsystems, Inc., 4150 Network Circle, Santa Clara, California 95054, U.S.A. All rights reserved.

本書の製品に使われているテクノロジーに関する知的所有権は、Sun Microsystems, Inc. が所有しています。当該知的所有権は、<http://www.sun.com/patents> に掲載されている米国特許、米国およびその他の国で取得済みまたは申請中の特許などがすべて含まれます。

本書および製品は、その使用、複製、再頒布および逆コンパイルを制限するライセンスに基づいて頒布され、本製品にのみ対応します。Sun Microsystems, Inc. またはそのライセンス許諾者の書面による事前の許可なくして、本書または製品のいかなる部分もいかなる手段および形式によっても複製することを禁じます。

本製品に含まれるサードパーティソフトウェア（フォントに関するテクノロジーを含む）は、著作権を有する当該各社より Sun 社へライセンス供与されているものです。

本製品の一部は、Berkeley BSD systems に由来し、University of California からライセンスを受けています。UNIX は、X/Open Company, Ltd. の米国ならびに他の国における登録商標で、X/Open Company, Ltd. が所有する独占的ライセンス供与権に基づいて、Sun 社にライセンス供与されています。

Sun, Sun Microsystems, Sun のロゴマーク、Java, JavaScript, JDK, Sun Cobalt, Sun Cobalt RaQ, Sun Cobalt CacheRaQ, Sun Cobalt Qube, Sun Cobalt のロゴマークは、Sun Microsystems, Inc. の米国およびその他の国における商標または登録商標です。

Netscape および Netscape Navigator は、Netscape Communication Corporation の米国およびその他の国における商標または登録商標です。

PostScript は、Adobe Systems, Incorporated の商標または登録商標で、特定の管轄権に登録されています。

Linux は Linus Torvalds 氏の商標です。

Federal Acquisitions: Commercial Software - Government Users Subject to Standard License Terms and Conditions.

本書は、「あるがまま」の形で提供され、法律により免責が認められない場合を除き、商品性、特定目的への適合性、第三者の権利の非侵害に関する暗黙の保証を含む、いかなる明示的および暗示的な保証も伴わないものとします。

Copyright © 1997-2002 Sun Microsystems, Inc., 4150 Network Circle, Santa Clara, California 95054, U.S.A. Tous droits réservés.

Sun Microsystems, Inc. détient des droits de propriété intellectuelle sur la technologie réunie dans le produit qui est décrit par ce document. Ces droits de propriété intellectuelle peuvent s'appliquer en particulier, sans toutefois s'y limiter, à un ou plusieurs des brevets américains répertoriés à l'adresse <http://www.sun.com/patents> et à un ou plusieurs brevets supplémentaires ou brevets en instance aux Etats-Unis et dans d'autres pays.

Ce produit ou document est distribué avec des licences qui en restreignent l'utilisation, la copie, la distribution et la décompilation. Aucune partie de ce produit ou document ne peut être reproduite sous aucune forme, par quelque moyen que ce soit, sans l'autorisation préalable et écrite de Sun et de ses bailleurs de licence, s'il y en a.

Le logiciel détenu par des tiers, et qui comprend la technologie relative aux polices de caractères, est protégé par un copyright et licencié par des fournisseurs de Sun.

Des parties de ce produit pourront être dérivées des systèmes Berkeley BSD licenciés par l'Université de Californie. UNIX est une marque déposée aux Etats-Unis et dans d'autres pays et licenciée exclusivement par X/Open Company, Ltd.

Sun, Sun Microsystems, le logo Sun, Java, JavaScript, JDK, Sun Cobalt, Sun Cobalt RaQ, Sun Cobalt CacheRaQ, Sun Cobalt Qube et le logo Sun Cobalt sont des marques de fabrique ou des marques déposées de Sun Microsystems, Inc. aux Etats-Unis et dans d'autres pays.

Netscape et Netscape Navigator sont des marques de fabrique ou des marques déposées de Netscape Communication Corporation aux Etats-Unis et dans d'autres pays.

PostScript est une marque de fabrique d'Adobe Systems, Incorporated, laquelle pourrait être déposée dans certaines juridictions.

Linux est une marque de fabrique de Linus Torvalds.

LA DOCUMENTATION EST FOURNIE "EN L'ETAT" ET TOUTES AUTRES CONDITIONS, DECLARATIONS ET GARANTIES EXPRESSES OU TACITES SONT FORMELLEMENT EXCLUES, DANS LA MESURE AUTORISEE PAR LA LOI APPLICABLE, Y COMPRIS NOTAMMENT TOUTE GARANTIE IMPLICITE RELATIVE A LA QUALITE MARCHANDE, A L'APTITUDE A UNE UTILISATION PARTICULIERE OU A L'ABSENCE DE CONTREFAÇON.

部品番号 / Numéro de pièce :

**816-3401-12 Rev A**

# 目次

<b>1 Software Management モジュール</b>	<b>1-1</b>
Software Management 画面 .....	1-2
パッケージファイル .....	1-2
Software Management で利用できるタスク .....	1-2
Upload .....	1-2
Download .....	1-2
Publish .....	1-2
Unpublish .....	1-3
Install .....	1-3
Uninstall .....	1-3
Package Info .....	1-3
Remove .....	1-3
Package Management .....	1-4
パッケージファイルのアップロード .....	1-5
1つのパッケージファイル .....	1-5
複数のパッケージファイル .....	1-6
表示オプションの設定 .....	1-8
入手できるパッケージファイルのリストの検索 .....	1-10
パッケージファイルのダウンロード .....	1-10
パッケージファイルのパブリッシュ .....	1-10
パッケージファイルのアンパブリッシュ .....	1-10
パッケージファイルのインストール .....	1-11
入手できるパッケージファイルの詳細の表示 .....	1-12
パッケージファイルの削除 .....	1-12
Installed Packages .....	1-13
インストールされたパッケージファイルのリストの更新 .....	1-13
インストールされているパッケージファイルの詳細の表示 .....	1-15
インストールされているパッケージファイルのアンインストール .....	1-16
インストールされているパッケージファイルのリストの検索 .....	1-16
Needed Packages .....	1-17
パッケージファイルのダウンロード .....	1-17
パッケージファイルのパブリッシュ .....	1-17
パッケージファイルのインストール .....	1-19
パッケージファイルの詳細の表示 .....	1-20



# Software Management モジュール

---

本書では、Sun Cobalt™ コントロールステーションの Software Management コントロールモジュールで利用できる機能やサービスについて説明します。このモジュールを使うと、次の操作を行えます。

- Sun Cobalt BlueLinQ サーバや他の Sun Cobalt コントロールステーションからロード可能なパッケージファイルを表示し、これらの場所からコントロールステーションに希望のファイルをダウンロード
- 自分のコンピュータからコントロールステーションにパッケージファイルをアップロード
- BlueLinQ サーバを追加し、新しくパブリッシュされたパッケージファイルをコントロールステーションから確認可能にする
- 管理下にあるサーバにインストールされているパッケージファイルの表示
- 管理下にある1台あるいは複数のサーバに必要なパッケージファイルのリストの作成
- 管理下にあるサーバにおけるパッケージファイルのインストールまたはアンインストール
- BlueLinQ 対応クライアントがパッケージファイルを認識できるようにしたり（パブリッシュ）、認識できないようにする（アンパブリッシュ）（コントロールステーションを BlueLinQ サーバとして動作させる）
- リモートサーバから自動的にロードできるソフトウェアバンドルを認識できるようにする（オートロードタスクはリモートサーバが実行します。この機能は、一部の Sun Cobalt サーバでのみ利用できます。）



**ご参考：** 本章で説明する手順では、たいてい最初に画面上のメニューバーにある [Control Modules] タブをクリックし、次に左側のメニューバーから該当する項目をクリックします。

各手順をわかりやすく説明するため、メニューコマンドは [ ] に入れて示します。各項目は、右向きのアングルブラケット (>) で区別してあります。

たとえば、[Control Modules] > [Software Management] > [Settings] は、画面上のメニューバーにある [Control Modules] タブをクリックし、画面左のメニューバーにある [Software Management] メニューカテゴリをクリックしてから、最後に [Settings] サブメニュー項目をクリックすることを意味します。

---

## Software Management 画面

画面左にある [Software Management] メニューをクリックすると、次のサブメニューが表示されます。

- Package Management (「Package Management」 (p.1-4) 参照)
- Installed Packages (「Installed Packages」 (p.1-13) 参照)
- Needed Packages (「Needed Packages」 (p.1-17) 参照)
- AutoLoad Bundles (「AutoLoad Bundles」 (p.1-21) 参照)
- Settings (「Settings」 (p.1-26) 参照)

[Installed Packages] 機能と [Needed Packages] 機能では、サーバ名の横にある矢印をクリックすると、管理下にあるサーバにインストールされているパッケージファイルのリストまたはそのサーバに必要なパッケージファイルのリストが表示されます。

### パッケージファイル

ユーザマニュアルでは、パッケージファイルとは、Sun Cobalt サーバ向けの Sun Cobalt パッケージファイルおよび Sun Linux ベースの汎用サーバ (Sun LX50 サーバなど) 向けの Red Hat Package Manager (RPM) ファイルを指します。

---

## Software Management で利用できるタスク

次に、パッケージファイルに関するタスクについて説明します。



ご参考： 次のタスクのすべてが各画面で利用できるわけではありません。

### Upload

[Upload] は、お使いのコンピュータからアクセス可能なロケーションから、パッケージファイルをコントロールステーションのローカルリポジトリにロードします。パッケージファイルがコントロールステーションにロードされ、そのパッケージファイルが正しい形式になっており、適切なリストデータを含んでいれば、パブリッシュまたはインストールが可能です。

### Download

[Download] は、リモートリポジトリからコントロールステーションのローカルリポジトリにパッケージファイルをダウンロードします。

### Publish

[Publish] は、外付の BlueLinQ 対応サーバにパッケージファイルをダウンロードできるようにします。パッケージファイルは、リモートサーバまたはローカルリポジトリからパブリッシュできます。

リモートサーバにあるパッケージファイルを選択してパブリッシュしようとする、パッケージファイルは、まず最初にコントロールステーションのローカルリポジトリにダウンロードされ、その後使用可能になります。

Sun Cobalt コントロールステーションにパブリッシュされたパッケージファイルを表示するには、BlueLinQ 対応サーバの BlueLinQ 設定を次のように指定します。http://<SCCS のドメインネーム >/packages/。

## Unpublish

[Unpublish] は、BlueLinQ 対応サーバにパッケージファイルをダウンロードできないようにします。

この場合、パッケージファイルは、外付の BlueLinQ 対応サーバからは認識されませんが、[Package Management] テーブルには表示されます。パッケージファイルはコントロールステーションのローカルリポジトリに保存されたままになります。

## Install

[Install] は、選択した管理下にあるサーバにパッケージファイルをインストールします。ローカルまたはリモートのいずれのリポジトリからでもパッケージファイルをインストールできます。

リモートサーバにあるパッケージファイルを選択して、管理下にあるサーバにインストールしようとする、パッケージファイルは、まず最初にコントロールステーションのローカルリポジトリにダウンロードされ、その後、管理下にあるサーバにインストールされます。

パッケージファイルをインストールする前に、コントロールステーションは依存性チェックを行い、確認画面を表示します。詳細については、「依存性チェック」(p.1-33) をご参照ください。

## Uninstall



**ご注意：** Sun Linux ベースの汎用サーバ (Sun LX50 サーバなど) から RPM ファイルをアンインストールすると、サーバの機能に支障が生じることがあります。

[Uninstall] は、選択した管理下にあるサーバからパッケージファイルをアンインストールします。ただし、この機能が利用できるパッケージファイルに限ります。

パッケージファイルがアンインストールされると、サーバにインストールされているパッケージファイルのリストがすぐに更新されます。

## Package Info

[Package Info] は、パッケージファイルに関する詳細情報 (パッケージファイルの提供元、内容説明、サイズや、パッケージファイルをアンインストールできるかどうか、インストール後にサーバを再起動する必要があるかどうか、このパッケージファイルに必要なパッケージなど) を表示します。

## Remove

[Remove] は、入手できるパッケージファイルのリストからパッケージを削除します。パッケージファイルがリモートの BlueLinQ サーバに保存されている場合には、そのパッケージファイルのエントリは、入手できるパッケージファイルのリストから削除されます。パッケージファイルがコントロールステーションのローカルリポジトリにある場合には、そのパッケージファイルのエントリは、入手できるパッケージファイルのリストから削除された上、そのパッケージファイルはリポジトリからも削除されます。

既にコントロールステーションにパブリッシュされた後でパッケージファイルを削除すると、そのパッケージは BlueLinQ 対応サーバにインストールできなくなります。

[Refresh] オプションを使うと、リモート BlueLinQ サーバにあるパッケージファイルを再び表示できます。



**ご参考：** [Remove] オプションでは、リモートの BlueLinQ サーバからはパッケージファイルを削除できません。

## Package Management

[Package Management] サブメニューを利用すると、リモートサーバやローカルサーバ上のパッケージファイルを管理できます。セレクトには、Sun Cobalt コントロールステーションが認識できるすべてのソフトウェアパッケージがリスト表示されます。ソフトウェアパッケージは、コントロールステーションまたはリモート BlueLinQ サーバにあります。

このメニューで利用できるタスクの説明については、「Software Management で利用できるタスク」(p.1-2)をご参照ください。

図1に [Package Management] テーブルの例を示します。

図1 Package Management テーブル

The screenshot shows the Package Management interface. At the top, there are buttons for 'Upload' and 'Display Options', and a search field. Below these is a blue header bar with 'Package Management'. Underneath are 'Select all' and 'Deselect all' buttons. The main part is a table with the following columns: Package, Version, Repository, Published, and Description. The table lists various packages such as 'CacheRaQ4-All-Security Release 0.0.1-10750', 'RaQ3-All-System Release 4.0.1-12854', 'Sun Cobalt Adaptive Firewall', etc. At the bottom, there are buttons for 'Download', 'Publish', 'Unpublish', 'Install', 'Package Info', and 'Remove', along with a status indicator '64 item(s)'.

Package	Version	Repository	Published	Description
CacheRaQ4-All-Security Release 0.0.1-10750	Unknown	local	Unpublished	
RaQ3-All-System Release 4.0.1-12854	Unknown	local	Unpublished	
Sun Cobalt Adaptive Firewall	1.7.0	local	Unpublished	ALPHA V
Knox Arkeia Client	1.0	local	Unpublished	Provides t
Qube3-ml-System-2.0.2-10448	1.0	local	Unpublished	This OS U
Legato NetWorker Client	1.0	local	Unpublished	Provides t
Qube 3 User Manual	1.0	local	Unpublished	Qube 3 G
Qube 3 User Manual	1.0	local	Unpublished	Qube 3 Er
Qube 3 User Manual	1.0	local	Unpublished	Qube 3 S
Qube 3 User Manual	1.0	local	Unpublished	Qube 3 Fr
Qube 3 User Manual	1.0	local	Unpublished	shortDesc
Qube 3 User Manual	1.0	local	Unpublished	Qube 3 Si
Qube 3 User Manual	1.0	local	Unpublished	Qube 3 Tr
Veritas NetBackup Client	1.0	local	Unpublished	Provides t
BlueLinQ Patch	1.0	local	Unpublished	This packa
Qube3 CMU	2.9	local	Unpublished	Cobalt Mig
Qube3-All-Security-2.0.1-10269	1.0	local	Unpublished	Anonymou
name	6.5.1	devbluelinq	Unpublished	shortDesc
Cobalt OS	6.1	devbluelinq	Unpublished	The Coba
Cobalt OS	6.2	devbluelinq	Unpublished	The Coba
Qube3-ml-Update-3.0	6.3	devbluelinq	Unpublished	Cobalt OS

64 item(s)

Download Publish Unpublish Install Package Info Remove

## パッケージファイルのアップロード

パッケージファイルは、1度に1つまたは複数のファイルをアップロードできます。

### 1つのパッケージファイル

1つのパッケージファイルをアップロードするには、次の操作を行います。

1. [Control Modules] > [Software Management] > [Package Management] を選びます。[Package Management] テーブルが表示されます。
2. テーブルの上にある [Upload] ボタンをクリックします。[Manual Package Upload] テーブルが表示されます (図2 参照)。
3. 2つのラジオボタンのどちらかをクリックし、パッケージファイルの保存されている場所を指定します。
  - インターネット上のウェブサイトからパッケージファイルをダウンロードするには、http://、https:// または ftp:// で始まる URL を入力します。
  - パッケージファイルのパスとファイル名を入力するか、[Browse] ボタンをクリックしてファイルを指定します。



**ご参考：** インターネットにアクセスするためにコントロールステーションがプロキシを通過しなければならない場合には、[Station Settings] > [BlueLinQ] > [Settings] で指定されているプロキシ設定が使われます。プロキシ設定を指定していない場合には、URL を使ってパッケージファイルをアップロードする前に設定する必要があります。

詳細については、「管理者マニュアル」PDF ファイルの第2章「BlueLinQ」のセクションをご参照ください。

4. [Upload] ボタンをクリックします。[Task Progress] バーが表示されます。

図2 1つのパッケージファイルのアップロード

The screenshot shows a web interface for uploading a package. At the top, there is a dropdown menu labeled 'Select Upload Method'. Below it is a blue header bar with the text 'Manual Package Upload'. Underneath, there is a 'Location' label on the left. To the right of the label are two radio buttons: 'URL' (which is selected) and 'Upload'. Below the 'URL' radio button is a text input field. Below the 'Upload' radio button is another text input field followed by a 'Browse...' button. At the bottom of the form, there are two blue buttons: 'Upload' and 'Back'.

## 複数のパッケージファイル



**ご参考：** パッケージファイルは、操作の最後に [Upload] ボタンをクリックするまでコントロールステーションにはロードされません。

一度に複数のパッケージファイルをアップロードするには、次の操作を行います。

1. [Control Modules] > [Software Management] > [Package Management] を選びます。[Package Management] テーブルが表示されます。
2. テーブルの上にある [Upload] ボタンをクリックします。
3. テーブルの上にあるプルダウンメニューから [Upload Multiple Packages] を選びます。[Manual Package Upload] テーブルが表示されます (図3 参照)。
4. アップロードするパッケージファイルの選択方法は2通りあります。

- [Local Packages] スクロールボックスで、緑色のパッケージ追加アイコンをクリックして、ローカルコンピュータからアップロードするパッケージファイルのリストを作成します。新しいブラウザウィンドウが開き、[Add File] テーブルが表示されます (図4 参照)。

追加するパッケージファイルのパスとファイル名を入力するか、[Browse] ボタンをクリックしてファイルを指定します。

[Submit] ボタンをクリックします。ファイルがリストに追加されます。

[Local Packages] スクロールボックスからパッケージを削除するには、削除するパッケージをハイライトしてから、赤いパッケージ削除アイコンをクリックします。



**ご参考：** [Submit] ボタンをクリックすると、[Load Packages] リストにパッケージファイルを追加する前に、PHP がファイルを一時ディレクトリにセキュアにコピーします。

大きなパッケージファイルの場合には、この操作にしばらくかかります。コピーの進行状況を示すバーは表示されません。

- [Source File] フィールドで、アップロードするパッケージファイルのリストを含むテキストファイルを選ぶこともできます。

このファイルでは、パッケージの保存場所をコントロールステーションのディレクトリパスまたは URL (<http://> または <https://>) として指定します。次の行に、サンプルファイルに指定されているパッケージファイルの例を示します。

```
home/pkgs/packageA.pkg  
http://ftp.cobalt.sun.com/pub/packages/raq4/eng/RaQ4-All-Security-1.0.1-8061.pkg  
/tmp/packageB.pkg  
https://ftp.server.com/pub/package.pkg
```

パッケージファイルのパスとファイル名を入力するか、[Browse] ボタンをクリックしてファイルを指定します。



**ご参考：** インターネットにアクセスするためにコントロールステーションがプロキシを通過しなければならない場合には、[Station Settings] > [BlueLinQ] > [Settings] で指定されているプロキシ設定が使われます。プロキシ設定を指定していない場合には、URL を使ってパッケージファイルをアップロードする前に設定する必要があります。

詳細については、「管理者マニュアル」PDF ファイルの第2章「BlueLinQ」のセクションをご参照ください。

5. [Upload] ボタンをクリックします。[Task Progress] バーが表示されます。

図 3 複数のパッケージファイルのアップロード

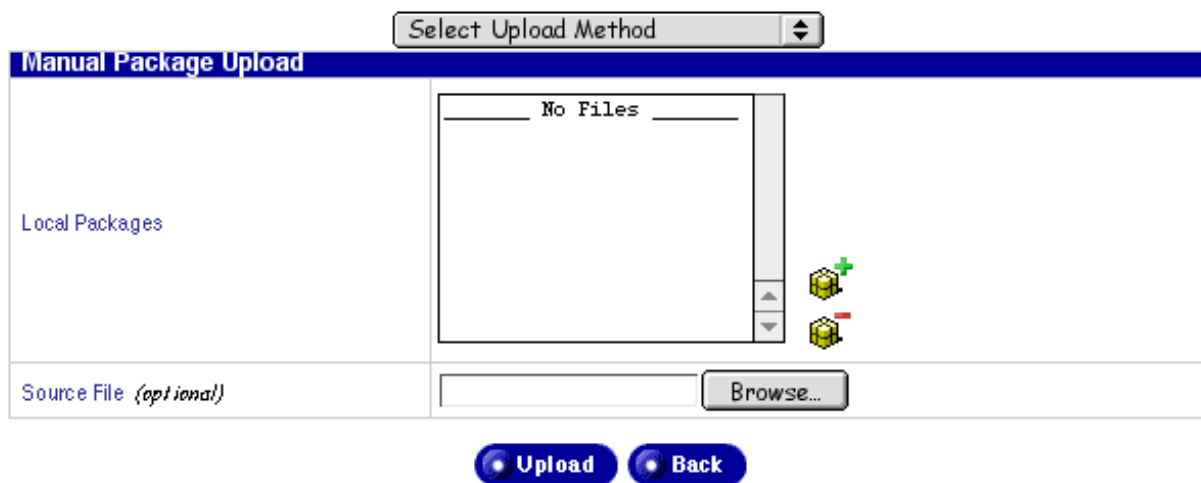
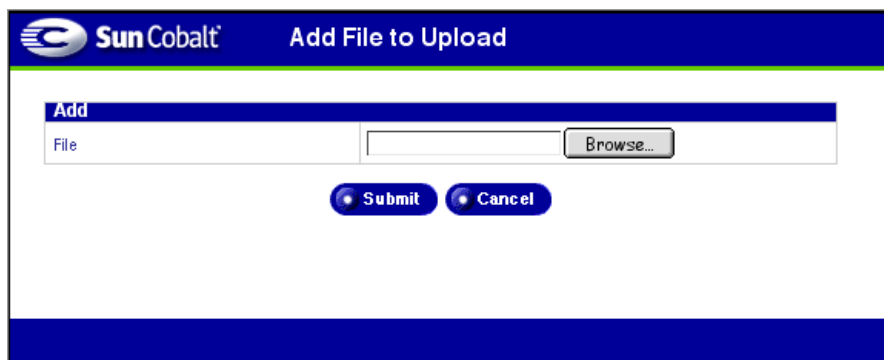


図 4 「ファイルの追加」テーブル



## 表示オプションの設定

次の条件に応じて、[Package Management] テーブルに表示するパッケージファイルを指定できます。

- パッケージファイルが保存されているリポジトリ
- 利用可能なパッケージファイルを表示する製品
- パッケージファイルのパブリッシュ状況

これらの表示オプションは、次に変更するまで有効です。



**ご参考：** これらの表示オプションは、[Package Management] テーブルにだけ適用されます。

表示オプションを設定するには、次の操作を行います。

1. [Control Modules] > [Software Management] > [Package Management] を選びます。[Package Management] テーブルが表示されます。
2. テーブルの上にある [Display Options] ボタンをクリックします。[Display Options] テーブルが表示されます (図5参照)。
3. 次の表示オプションを設定できます。

- **Repositories：** パッケージファイルを表示するリポジトリを選択
- **Products：** 利用可能なパッケージファイルを表示する製品を選択
- **Published States：** [Published] パッケージファイル、[Unpublished] パッケージファイル、あるいはその両方を選択

スクロールボックス内の項目を移動するには、該当する項目をリストでハイライトしてから、矢印ボタンをクリックします。

4. [Change Display] ボタンをクリックします。

[Package Management] テーブルがリフレッシュされ、選択した表示オプションに応じて、入手できるパッケージファイルのリストが表示されます。

図 5 Display Options テーブル

Display Options			
Respositories	Repositories Displayed	←	Repositories Not Displayed
	local devbluelinq	→	Empty
Products	Products Displayed	←	Products Not Displayed
	RaQ 2J RaQ 3 RaQ 3J RaQ 4 RaQ 4J RaQ 550	→	Empty
Publish States	Patch Status State	←	Published States Not Displayed
	Unpublished Published	→	Empty

## 入手できるパッケージファイルのリストの検索

入手できるパッケージファイルのリストで文字列を検索するには、次の操作を行います。

1. [Control Modules] > [Software Management] > [Package Management] を選びます。[Package Management] テーブルが表示されます。
2. 右上隅にある [Search] フィールドに、入手できるパッケージファイルのリストで検索したい文字列を入力します。検索は、テーブル内のパッケージファイル名、バージョン番号、説明の各フィールドで行えます。
3. キーボードの [Return] キー（または [Enter] キー）を押します。[Package Management] テーブルがリフレッシュされ、検索結果が表示されます。

検索結果のリストでは、他のどの機能も実行できます。また、検索結果のリストで、別の検索を行うこともできます。

全パッケージファイルのリストに戻るには、画面左の [Package Management] をクリックします。

## パッケージファイルのダウンロード

BlueLinQ サーバからコントロールステーションのローカルリポジトリにパッケージファイルをダウンロードするには、次の操作を行います。

1. [Control Modules] > [Software Management] > [Package Management] を選びます。[Package Management] テーブルが表示されます。
2. ダウンロードしたいパッケージファイル（複数可）を、入手できるパッケージファイルのリストから選びます。
3. テーブルの下にある [Download] ボタンをクリックします。[Task Progress] バーが表示されます。

## パッケージファイルのパブリッシュ

パッケージファイルをパブリッシュして、外付の BlueLinQ 対応サーバから利用できるようにするには、次の操作を行います。

1. [Control Modules] > [Software Management] > [Package Management] を選びます。[Package Management] テーブルが表示されます。
2. パブリッシュしたいパッケージファイル（複数可）を、入手できるパッケージファイルのリストから選びます。
3. テーブルの下にある [Publish] ボタンをクリックします。[Task Progress] バーが表示されます。

## パッケージファイルのアンパブリッシュ

パッケージファイルをアンパブリッシュして、外付の BlueLinQ 対応サーバから利用できないようにするには、次の操作を行います。

1. [Control Modules] > [Software Management] > [Package Management] を選びます。[Package Management] テーブルが表示されます。
2. アンパブリッシュしたいパッケージファイル（複数可）を、入手できるパッケージファイルのリストから選びます。
3. テーブルの下にある [Unpublish] ボタンをクリックします。[Task Progress] バーが表示されます。

## パッケージファイルのインストール



**ご参考：** パッケージファイルは依存性チェックの結果が表示されている画面で [Install] ボタンをクリックするまで、サーバにはインストールされません。



**ご参考：** パッケージファイルがインストールされると、サーバにインストールされているパッケージファイルのリストがすぐに更新されます。

管理下にあるサーバにパッケージファイルをインストールするには、次の操作を行います。

1. [Control Modules] > [Software Management] > [Package Management] を選びます。[Package Management] テーブルが表示されます。
2. インストールしたいパッケージファイル（複数可）を、入手できるパッケージファイルのリストから選びます。
3. テーブルの下にある [Install] ボタンをクリックします。サーバデスクトップ UI に別のアプレットウィンドウが開き、パッケージをインストールするサーバを選ぶよう求めるメッセージが表示されます。一番上にある [Select All] ボタンをクリックして、リスト内の全サーバを選ぶこともできます。

前の画面で選んだパッケージファイルをインストールできるサーバだけが表示されます。

4. 右下隅の [Continue] ボタンをクリックします。

この時点で、Sun Cobalt コントロールステーションは、選択されているサーバの依存性チェックを行って、選択されているパッケージファイルをインストールできることを確認します。詳細については、「依存性チェック」(p.1-33) をご参照ください。

依存性チェックが完了すると、[Patch Install Status] テーブルと [Install Information by Appliance] テーブルに結果が表示されます。

5. [Install] ボタンをクリックします。[Task Progress] バーが表示されます。



**ご参考：** パッケージファイルのインストールは、スケジュールを作成してあとで実行することもできます。詳細については、「Schedule」(p.1-31) をご参照ください。

## 入手できるパッケージファイルの詳細の表示

入手できるパッケージファイルの詳細を表示するには、次の操作を行います。

1. [Control Modules] > [Software Management] > [Package Management] を選びます。[Package Management] テーブルが表示されます。
2. 詳細を表示したいパッケージファイル（複数可）を、入手できるパッケージファイルのリストから選びます。
3. テーブルの下にある [Package Info] ボタンをクリックします。タイトルバーにパッケージファイル名が記載されたテーブルが表示されます。複数のパッケージを選んだ場合には、各パッケージごとにテーブルが表示されます。
4. テーブルには次の情報が提供されています。
  - パッケージファイル名
  - バージョン番号
  - パッケージファイルの提供元
  - パッケージファイルの内容説明
  - パッケージファイルの保存先
  - パッケージファイルのサイズ (MB)
  - サーバにインストール後、パッケージファイルをアンインストールできるかどうか
  - パッケージファイルのインストール後、サーバを再起動する必要があるかどうか
  - このパッケージファイルをインストールする前に、サーバにインストールしておかなければならない他のパッケージファイルがあるかどうか
5. [Back] ボタンをクリックすると、[Package Management] テーブルに戻ります。

## パッケージファイルの削除

入手できるパッケージファイルのリストからパッケージファイルを削除するには、次の操作を行います。



**ご参考：** [Remove] オプションでは、リモートの BlueLinQ サーバからはパッケージファイルを削除できません。

1. [Control Modules] > [Software Management] > [Package Management] を選びます。[Package Management] テーブルが表示されます。
2. 削除したいパッケージファイル（複数可）を、入手できるパッケージファイルのリストから選びます。
3. テーブルの下にある [Remove] ボタンをクリックします。[Confirm Removal of Package] テーブルが表示されます。
4. [Remove] ボタンをもう一度クリックします。パッケージがリストから削除され、[Package Management] テーブルがリフレッシュされます。

左下隅に緑色のチェックマークアイコンが表示され、パッケージの削除が完了したことを示します。

## Installed Packages

[Installed Packages] サブメニューは、選択したサーバに現在インストールされているパッケージファイルのリストを表示するときに使います。

[Installed Packages] サブメニューをクリックすると、[Installed Packages] テーブルが表示されます。

このテーブルの上には、[Update] ボタン、2つのプルダウンメニュー、検索フィールドが表示されます。

- **Update :** このボタンを使うと、選択したサーバを検索し、インストールされているパッケージファイルのリストを更新できます。
- **Select View :** このプルダウンメニューを使うと、サーバごとまたはパッケージファイルごとに、インストールされているパッケージファイルを表示できます。
  - a. **View By Appliance :** 選択したサーバが一番上に、その下にそのサーバにインストールされているパッケージファイルが表示されます。
  - b. **View By Package :** 選択したパッケージファイルが一番上に、その下にそのパッケージファイルがインストールされているサーバが表示されます。
- **Show Group :** このプルダウンメニューを使うと、特定のサーバグループまたはすべてのサーバグループにインストールされているパッケージファイルをテーブルに表示できます。
- **Search :** このフィールドでは、指定した文字列の検索が可能です。検索は、[Installed Packages] テーブル内のパッケージファイル名、バージョン番号、説明の各フィールドで行えます。検索条件に一致する結果が表示されます。

図 6 に [Installed Packages] テーブルの例を示します。

### インストールされたパッケージファイルのリストの更新



**ご参考：** パッケージファイルがインストールまたはアンインストールされると、サーバにインストールされているパッケージファイルのリストがすぐに更新されます。

管理下にあるサーバにインストールされているパッケージファイルのリストを更新するには、次の操作を行います。

1. [Control Modules] > [Software Management] > [Installed Packages] を選びます。[Installed Packages] テーブルに、管理下にあるサーバのリストが表示されます。
2. テーブルの上にある [Update] ボタンをクリックします。サーバデスクトップ UI に別の Java アプレットウィンドウが表示され、インストールされているパッケージファイルのリストを更新するサーバを尋ねるメッセージが表示されます。
3. サーバをクリックしてハイライトします。
4. 右下隅の [Update] ボタンをクリックします。[Task Progress] バーが表示されます。

図6 Installed Packages テーブル

Search:

**Installed Packages**

Package	Version
▼ lease188	Qube 3J
Qube3-All-Kernel-2.0.1-2.216C28III	4.0
Qube3-All-Kernel-2.0.1-2.216C32-2III	6.0
Cobalt OS	6.0
Qube3 CMU	2.9
▼ 10.9.32.136	RaQ 4
RaQ4-All-Mfg Release 1.0.1-11246	unknown
RaQ4-All-Security Release 1.0.2-9078	unknown
RaQ4-All-Security Release 1.0.2-9077	unknown
RaQ4-All-Security Release 1.0.2-9353	unknown
RaQ4-All-System Release 1.0.1-8572	unknown
RaQ4-All-Security Release 1.0.1-8232	unknown
RaQ4LE-All-SystemRelease 0.0.1-9340	unknown
RaQ4-All-Security Release 1.0.1-8762	unknown
RaQ4-en-OSUpdateRelease 1.0	unknown
Cobalt OS Release 6.0	unknown
Relational Database Server and Client tools by InterBase. Release V6.0	unknown
All-MgmtAgentRelease 1.1	unknown
▶ 10.9.32.139	RaQ 3
▶ 10.9.32.132	RaQ 4J
▶ 10.9.32.133	RaQ 3J
▶ 10.9.32.134	RaQ 3.J

50 item(s)

## インストールされているパッケージファイルの詳細の表示

インストールされているパッケージファイルの詳細を表示するには、次の操作を行います。

1. [Control Modules] > [Software Management] > [Installed Packages] を選びます。[Installed Packages] テーブルが表示されます。
2. プルダウンメニューから、表示内容（サーバごとまたはパッケージファイルごと）を選ぶか、いずれか1つのグループを選んで表示します。[Installed Packages] テーブルがリフレッシュされます。
3. 詳細を表示したいパッケージファイル（複数可）を、インストールされているパッケージファイルのリストから選びます。
4. 右下隅の [Info] ボタンをクリックします。タイトルバーにパッケージファイル名が記載されたテーブルが表示されます。複数のパッケージファイルを選んだ場合には、各パッケージファイルごとにテーブルが表示されます。
5. テーブルには次の情報が提供されています。
  - パッケージファイル名
  - バージョン番号
  - パッケージファイルの提供元
  - パッケージファイルの内容説明
  - パッケージファイルの保存先
  - パッケージファイルのサイズ (MB)
  - サーバにインストール後、パッケージファイルをアンインストールできるかどうか
  - パッケージファイルのインストール後、サーバを再起動する必要があるかどうか
  - このパッケージファイルをインストールする前に、サーバにインストールしておかなければならない他のパッケージファイルがあるかどうか
6. [Back] ボタンをクリックすると、[Installed Packages] テーブルに戻ります。

## インストールされているパッケージファイルのアンインストール

- 一部のパッケージファイルは、サーバからアンインストールできます。



**ご注意：** Sun Linux ベースの汎用サーバ（Sun LX50 サーバなど）から RPM ファイルをアンインストールすると、サーバの機能に支障が生じることがあります。



**ご参考：** アンインストールできないパッケージファイルをアンインストールしようとする、サーバデスクトップ UI の画面下にエラーメッセージが表示されます。

パッケージファイルをアンインストールできるかどうかを確認するには、「インストールされているパッケージファイルの詳細の表示」(p.1-15) をご参照ください。



**ご参考：** パッケージファイルがアンインストールされると、サーバにインストールされているパッケージファイルのリストがすぐに更新されます。

パッケージファイルをアンインストールするには、次の操作を行います。

- [Control Modules] > [Software Management] > [Installed Packages] を選びます。[Installed Packages] テーブルが表示されます。
- プルダウンメニューを使って [View by Appliance] 表示を選びます。[Installed Packages] テーブルがリフレッシュされます。
- アンインストールしたいパッケージファイル（複数可）を、インストールされているパッケージファイルのリストから選びます。
- 右下隅の [Uninstall] ボタンをクリックします。[Packages to Uninstall] テーブルに、アンインストールしたいパッケージファイルの情報が表示されます。
- [Uninstall] ボタンをクリックします。[Task Progress] バーが表示されます。

## インストールされているパッケージファイルのリストの検索

インストールされているパッケージファイルのリストで文字列を検索するには、次の操作を行います。

- [Control Modules] > [Software Management] > [Installed Packages] を選びます。[Installed Packages] テーブルが表示されます。
- 右上隅にある [Search] フィールドに、インストールされているパッケージファイルのリストで検索したい文字列を入力します。

検索は、テーブル内のパッケージファイル名、バージョン番号、説明の各フィールドで行えます。

- キーボードの [Return] キー（または [Enter] キー）を押します。[Installed Packages] テーブルがリフレッシュされ、検索文字列に一致したエントリのリストが表示されます。

検索結果のリストでは、他のどの機能も実行できます。また、検索結果のリストで、別の検索を行うこともできます。

---

## Needed Packages

[Needed Packages] サブメニューは、管理下にあるサーバにインストールされているパッケージファイルのセットと、[Package Management] テーブルにリストされたパッケージファイルを比較するときに使います。これらのパッケージファイルは、コントロールステーションまたはリモート BlueLinQ サーバにあります。

比較結果のレポートには、選択されたサーバごとに、現在サーバにインストールされていないパッケージファイルが表示されます。



**ご参考：** できるだけ正しく比較するために、最初に以下の操作を行うようお勧めします。

1. 管理下にあるサーバの [Installed Software] 画面で [Update] タスクを行います（「インストールされたパッケージファイルのリストの更新」(p.1-13) 参照）。
2. BlueLinQ サーバの [Settings] 画面で [Refresh] タスクを行います（「パッケージリストのリフレッシュ」(p.1-26) 参照）。

このメニューで利用できるタスクの説明については、「Software Management で利用できるタスク」(p.1-2) をご参照ください。

図 7 に [Needed Packages] テーブルの例を示します。

### パッケージファイルのダウンロード

BlueLinQ サーバからコントロールステーションのローカルリポジトリにパッケージファイルをダウンロードするには、次の操作を行います。

1. [Control Modules] > [Software Management] > [Needed Packages] を選びます。[Needed Packages] テーブルに、管理下にあるサーバが表示されます。各サーバに必要なパッケージファイルが、各サーバの下にリスト表示されます。
2. ダウンロードしたいパッケージファイル（複数可）を、入手できるパッケージファイルのリストから選びます。
3. テーブルの下にある [Download] ボタンをクリックします。[Task Progress] バーが表示されます。

### パッケージファイルのパブリッシュ

パッケージファイルをパブリッシュして、外付の BlueLinQ 対応サーバにダウンロードできるようにするには、次の操作を行います。

1. [Control Modules] > [Software Management] > [Needed Packages] を選びます。[Needed Packages] テーブルに、管理下にあるサーバが表示されます。各サーバに必要なパッケージファイルが、各サーバの下にリスト表示されます。
2. パブリッシュしたいパッケージファイル（複数可）を、入手できるパッケージファイルのリストから選びます。
3. テーブルの下にある [Publish] ボタンをクリックします。[Task Progress] バーが表示されます。

図7 Needed Packages テーブル

Needed Packages				
<input type="button" value="Select all"/> <input type="button" value="Deselect all"/>				
Package	Version	Repository	Published	Description
▶ lease188	Qube 3J			
▼ 10.9.32.139	RaQ 3			
RaQ3-All-System Release 4.0.1-12854	unknown	local	Unpublished	
▶ 10.9.32.133	RaQ 3J			
▶ 10.9.32.134	RaQ 3J			
▼ bmula5	RaQ XTR			
BlueLinQ Patch	1.0	local	Unpublished	This pack
RaQXTR-All-Kemel-0.0.1-2.216C29V	1.0	local	Published	Kemel Up
RaQXTR-All-Security-1.0.1-10750	1.0	local	Published	Telnet Da
RaQXTR-All-System-1.0.1-10659	1.0	local	Published	Change t
RaQXTR-All-Security-1.0.1-10602	1.0	local	Published	Apache 1
RaQXTR-All-System-1.0.1-11597	1.0	local	Published	Poprelay
RaQXTR-All-Security-1.0.1-13540	1.0	local	Published	Pine ema
RaQXTR-All-Security-1.0.1-133469	1.0	local	Published	Mutt Upd
RaQXTR-All-Security-1.0.1-13126	1.0	local	Published	Cyrus SA
RaQXTR-All-Security-1.0.1-13453	1.0	local	Published	Glibc Upd
RaQXTR-All-Security-1.0.1-13890	1.0	local	Published	SNMP se
RaQXTR-All-Security-1.0.1-14047	0.9	local	Published	MultiFileU
RaQXTR-All-System-1.0.1-13993	1.0	local	Published	Email Alia
RaQXTR-All-Security-1.0.1-14039	1.0	local	Published	PHP Sec
RaQXTR-All-Security-1.0.1-13323	1.0	local	Published	Security E

44 item(s)

## パッケージファイルのインストール



**ご参考：** Sun Cobalt コントロールステーションは、[Install] ボタンをクリックするまでパッケージファイルをサーバにインストールしません。



**ご参考：** パッケージファイルがインストールされると、サーバにインストールされているパッケージファイルのリストがすぐに更新されます。

管理下にあるサーバにパッケージファイルをインストールするには、次の操作を行います。

1. [Control Modules] > [Software Management] > [Needed Packages] を選びます。[Needed Packages] テーブルに、管理下にあるサーバが表示されます。各サーバに必要なパッケージファイルが、各サーバの下にリスト表示されます。
2. インストールしたいパッケージファイル（複数可）を、入手できるパッケージファイルのリストから選びます。
3. テーブルの下にある [Install] ボタンをクリックします。

この時点で、Sun Cobalt コントロールステーションは、サーバの依存性チェックを行って、選択されているパッケージファイルをインストールできることを確認します。詳細については、「依存性チェック」(p.1-33)をご参照ください。

依存性チェックが完了すると、[Patch Install Status] テーブルと [Install Information by Appliance] テーブルに結果が表示されます。

4. [Install] ボタンをクリックします。[Task Progress] バーが表示されます。



**ご参考：** パッケージファイルのインストールは、スケジュールを作成してあとで実行することもできます。詳細については、「Schedule」(p.1-31)をご参照ください。

## パッケージファイルの詳細の表示

必要なパッケージファイルの詳細を表示するには、次の操作を行います。

1. [Control Modules] > [Software Management] > [Needed Packages] を選びます。[Needed Packages] テーブルに、管理下にあるサーバが表示されます。各サーバに必要なパッケージファイルが、各サーバの下にリスト表示されます。
2. 詳細を表示したいパッケージファイル（複数可）を、入手できるパッケージファイルのリストから選びます。
3. テーブルの下にある [Package Info] ボタンをクリックします。タイトルバーにパッケージファイル名が記載されたテーブルが表示されます。複数のパッケージファイルを選んだ場合には、各パッケージファイルごとにテーブルが表示されます。
4. テーブルには次の情報が提供されています。
  - パッケージファイル名
  - バージョン番号
  - パッケージファイルの提供元
  - パッケージファイルの内容説明
  - パッケージファイルの保存先
  - パッケージファイルのサイズ (MB)
  - サーバにインストール後、パッケージファイルをアンインストールできるかどうか
  - パッケージファイルのインストール後、サーバを再起動する必要があるかどうか
  - このパッケージファイルをインストールする前に、サーバにインストールしておかなければならない他のパッケージファイルがあるかどうか
5. [Back] ボタンをクリックすると、[Needed Packages] テーブルに戻ります。

## AutoLoad Bundles

一部の Sun Cobalt サーバでは、特定のサーバをポイントし、起動時にそのサーバに保存されているソフトウェアペイロードをロードするよう設定できます。このようなサーバに対して、Sun Cobalt コントロールステーションは AutoLoad サーバの役割を果たします。



**ご参考：** AutoLoad 機能は、リモートサーバからも実行できます。その際、リモートサーバはコントロールステーションにアクセスし、パッケージファイルのバンドルをプルダウンします。リモートサーバは、これらのパッケージリストに対して完全なコントロール権を持っています。

コントロールステーションは、AutoLoad バンドルをリモートサーバにプッシュしません。AutoLoad バンドルを構成する各パッケージファイルのメタデータとパッケージファイルをダウンロードできる保存場所だけを含みます。



**ご参考：** この機能は、一部の Sun Cobalt サーバでは「自動アップデート」と呼ばれています。

### バンドルの定義



**ご参考：** AutoLoad 機能は、Sun Cobalt サーバでのみ機能します。Sun Cobalt サーバは、Sun Cobalt パッケージファイル形式のファイルしか処理できません。

Sun Cobalt サーバでは RPM ファイルが正しく処理されないため、RPM ファイルを AutoLoad バンドルに追加しないでください。

AutoLoad 機能は、Sun Linux ベースの汎用サーバ (Sun LX50 サーバなど) では機能しません。

ソフトウェアバンドルには、実際のパッケージファイルは含まれず、パッケージファイルの一部であるメタデータが含まれています。

バンドルにはトークン名があり、リモートサーバがリクエストを行う際には、そのトークン名でバンドルを識別します。トークン名は、リモートサーバの LCD コンソール (機種によっては管理画面) から入力します。

メタデータには、パッケージファイルの名前、バージョン、提供元、保存場所、サイズ (MB)、パッケージファイルの依存性など、パッケージファイルの詳細を表示したときに表示される情報が含まれています。メタデータの詳細なリストについては、「入手できるパッケージファイルの詳細の表示」(p.1-12) をご参照ください。

リモートサーバが、正しいトークン名を使って自動供給サーバ (この場合は Sun Cobalt コントロールステーション) からバンドルをリクエストした場合、自動供給サーバは、バンドルに含まれている各パッケージファイルのメタデータを送信します。リモートサーバは、このメタデータの情報に応じて依存性チェックを行い、このバンドルの中で必要なパッケージファイルを判断します。次に、リモートサーバは、コントロールステーション上の入手できるパッケージファイルのリストから必要なパッケージファイルをダウンロードします。

複数のソフトウェアバンドルに含まれているパッケージファイルもあります。

接続は、<http://> チャンネルまたはセキュアな <https://> チャンネルを介して行われます。どちらを使うかは、リクエストを行うリモートサーバで指定します。
















### Bundle List テーブル

[Bundle List] テーブルには 4 つの欄があります。図 8 にテーブルの例を示します。

- Token Name
- Description

- Packages
- Details

図8 Bundle List テーブル

Bundle List			
Add			3 Entries
Token Name ▼	Description ▼	Packages ▼	Details
Education	Software for elementary schools in Seattle	15	    
Enterprise	ISP software for RaQ XTR server appliances	17	    
Retail	Retail software for stores in the Midwest	10	    

グループのリストは、トークン名、バンドルの説明、あるいはバンドル内のパッケージファイルの数別に、昇順または降順にソートできます。

昇順とは低い値から高い値に向かう順番です（例：A から Z、1 から 9）。降順とは高い値から低い値に向かう順番です（例：Z から A、9 から 1）。デフォルトでは、[Bundle List] テーブルはトークン名の昇順に並んでいます。

ソート条件の欄には、上向きまたは下向きの緑色の三角形のアイコン（昇順の場合は下向き、降順の場合は上向き）が表示されます。ソート条件でない欄の見出しには白抜き色の三角形のアイコンが付きます。これはその欄の順序がランダムであることを意味します。

### Details 欄

バンドルを作成すると、サーバ管理者はそのバンドルに関する様々な操作を行うことができます。実行可能な操作は、[Bundle List] テーブルの [Details] 欄にアイコンで表示されます。この項では、次の操作について説明します。

- バンドルの変更
- バンドルの詳細の表示
- バンドルへパッケージファイルを追加
- バンドルからパッケージファイルを削除
- バンドルの削除

## バンドルの作成

ソフトウェアバンドルを作成するには、次の操作を行います。

1. [Control Modules] > [Software Management] > [AutoLoad Bundles] を選びます。[Bundle List] テーブルが表示されます。
2. テーブルの上にある [Add] ボタンをクリックします。[Add AutoLoad Package Bundle] テーブルが表示されず (図 9 参照)。
3. 以下のフィールドに情報を入力します。
  - **Token Name:** パッケージファイルバンドルのトークン名を指定します。16 文字までの半角英数字を使えます。小文字をお使いになるようお勧めします。  
リモートサーバで AutoLoad 機能を使っている場合には、トークン名は、LCD コンソール (または、ユーザインターフェイスコンポーネント) に入力されています。
  - **Description (optional):** パッケージファイルバンドルの内容説明を入力します (指定例: Retail software for stores in the Midwest)。
  - **Choose packages to add:** このチェックボックスにチェックマークを付けると、バンドルの追加時にパッケージファイルがバンドルに追加されます。



**ご参考:** パッケージファイルそのものはバンドルには追加されません。バンドルには、指定したパッケージファイルのメタデータだけが含まれます。

4. [Save] ボタンをクリックします。  
[Choose packages to add] ボックスにチェックマークを付けなかった場合には、[Bundle List] テーブルに、1 つもパッケージファイルを含まない新規バンドルが表示されます。  
[Choose packages to add] ボックスにチェックマークを付けた場合には、入手できるパッケージファイルのリストを含むセレクトが表示されます。
5. セレクトで、バンドルに追加したいパッケージファイルをクリックしてハイライトします。一番上にある [Select All] をクリックして、リスト内の全パッケージファイルを選ぶこともできます。



**ご参考:** まだパブリッシュされていないパッケージファイルを選ぶと、コントロールステーションは、そのパッケージファイルのパブリッシュしてから、そのメタデータをバンドルに追加します。

リモートサーバ上にあるパッケージファイルを選ぶと、コントロールステーションは、そのパッケージファイルをダウンロードし、パブリッシュしてから、そのメタデータをバンドルに追加します。

BlueLinQ 対応サーバで、パブリッシュされたこれらのパッケージファイルを表示できるようになります。

6. 右下隅の [Add] ボタンをクリックします。[Task Progress] バーが表示されます。

図 9 Add AutoLoad Package Bundle テーブル

Add Autoload Package Bundle	
Token Name	<input type="text"/>
Description (optional)	<input type="text"/>
Choose Packages to add	<input type="checkbox"/>

## バンドルの変更

パッケージファイルバンドルのトークン名や説明は変更できます。

バンドルを変更するには、次の操作を行います。

1. [Control Modules] > [Software Management] > [AutoLoad Bundles] を選びます。[Bundle List] テーブルが表示されます。
2. 変更したいバンドルをリストから選びます。
3. [Details] 欄にある緑色の鉛筆アイコンをクリックします。[Update Bundle] テーブルが表示されます。
4. バンドルのトークン名または説明を変更します。[Description] フィールドへの入力は省略可能です。
5. [Save] ボタンをクリックします。[Bundle List] テーブルに、変更された情報が表示されます。

## バンドルの詳細の表示

指定したバンドルに含まれるパッケージファイルを表示できます。

バンドルの詳細を表示するには、次の操作を行います。

1. [Control Modules] > [Software Management] > [AutoLoad Bundles] を選びます。[Bundle List] テーブルが表示されます。
2. 詳細を表示したいバンドルをリストから選びます。
3. [Details] 欄にある緑色の虫めがねアイコンをクリックします。指定したバンドルに含まれているパッケージファイルのリストを含むセレクトが表示されます。
4. バンドルのリストに戻るには、セレクトの下にある [Back] ボタンをクリックします。[Bundle List] テーブルが表示されます。

## バンドルへパッケージファイルを追加

パッケージファイルは既存のバンドルに追加できます。

パッケージファイルを追加するには、次の操作を行います。

1. [Control Modules] > [Software Management] > [AutoLoad Bundles] を選びます。[Bundle List] テーブルが表示されます。
2. パッケージファイルを追加したいバンドルをリストから選びます。
3. [Details] 欄にある緑色のパッケージ追加アイコンをクリックします。入手できるパッケージファイルのリストを含むセレクトが表示されます。
4. セレクトで、バンドルに追加したいパッケージファイルをクリックしてハイライトします。一番上にある [Select All] をクリックして、リスト内の全パッケージファイルを選ぶこともできます。
5. 右下隅の [Add] ボタンをクリックします。[Task Progress] バーが表示されます。



**ご参考：** まだパブリッシュされていないパッケージファイルを選ぶと、コントロールステーションは、そのパッケージファイルをパブリッシュしてから、そのメタデータをバンドルに追加します。

リモートサーバ上にあるパッケージファイルを選ぶと、コントロールステーションは、そのパッケージファイルをダウンロードし、パブリッシュしてから、そのメタデータをバンドルに追加します。

BlueLinQ 対応サーバで、パブリッシュされたこれらのパッケージファイルを表示できるようになります。

## バンドルからパッケージファイルを削除

パッケージファイルは既存のバンドルから削除できます。



**ご参考：** バンドルからパッケージファイルを削除しても、そのパッケージファイルは、Sun Cobalt コントロールステーション上の入手できるパッケージファイルのリストからは削除されません。パッケージファイルはパブリッシュされた状態で残り、BlueLinQ 対応サーバから利用できます。

パッケージファイルを削除するには、「パッケージファイルの削除」(p.1-12)をご参照ください。

パッケージファイルを削除するには、次の操作を行います。

1. [Control Modules] > [Software Management] > [AutoLoad Bundles] を選びます。[Bundle List] テーブルが表示されます。
2. パッケージファイルを削除したいバンドルをリストから選びます。
3. [Details] 欄にある赤いパッケージ削除アイコンをクリックします。指定したバンドルに含まれているパッケージファイルのリストを含むセレクトが表示されます。
4. セレクトで、バンドルから削除したいパッケージファイルをクリックしてハイライトします。一番上にある [Select All] をクリックして、リスト内の全パッケージファイルを選ぶこともできます。
5. 右下隅の [Remove] ボタンをクリックします。

## バンドルの削除

既存のバンドルは削除できます。



**ご参考：** バンドルを削除しても、そのバンドルに含まれるパッケージファイルは、Sun Cobalt コントロールステーション上の入手できるパッケージファイルのリストからは削除されません。パッケージファイルはパブリッシュされた状態で残り、BlueLinQ 対応サーバから利用できます。

パッケージファイルを削除するには、「パッケージファイルの削除」(p.1-12)をご参照ください。

バンドルを削除するには、次の操作を行います。

1. [Control Modules] > [Software Management] > [AutoLoad Bundles] を選びます。[Bundle List] テーブルが表示されます。
2. 削除したいバンドルをリストから選びます。
3. [Details] 欄にある茶色のゴミ箱アイコンをクリックします。[Confirm Bundle Removal] テーブルに、削除を確認するメッセージが表示されます。
4. [Remove] ボタンをクリックします。[Task Progress] バーが表示されます。

## Settings

[Settings] サブメニュー項を使うと、Software Management モジュールを利用する BlueLinQ サーバを追加、変更、削除できます。また、[Package Management] テーブルに表示されるパッケージファイルのリストをリフレッシュすることもできます。Sun Cobalt コントロールステーションは、BlueLinQ サーバにアクセスし、管理下にあるサーバが入手できるパッケージファイルのリストを表示します。



**ご参考：** このメニューにリストされた BlueLinQ サーバには、Sun Cobalt コントロールステーションに管理されているサーバ向けのソフトウェアパッケージも含まれます。

コントロールステーション専用のソフトウェアについては、[Station Settings] > [BlueLinQ] で BlueLinQ サーバを設定してください。詳細については、「管理者マニュアル」PDF ファイルの「BlueLinQ」をご参照ください。

### Sun Cobalt コントロールステーションを BlueLinQ サーバとして設定

Sun Cobalt コントロールステーションは BlueLinQ サーバとしても機能します。Sun Cobalt コントロールステーションを含む BlueLinQ 対応サーバはすべて、コントロールステーションにパブリッシュされたパッケージファイルを表示できます。それにより、コントロールステーションはより効率的にパッケージファイルを共有、配信して、Software Management モジュールの「パブリッシュ」機能を最大限活用できます。

### Sun Cobalt サーバ用 BlueLinQ サーバ

Sun Cobalt サーバの `updates.cobalt.com/packages/` に、Sun Cobalt サーバ用に入手できるパッケージファイルのリストが掲載されています。

このサーバを BlueLinQ サーバのリストに追加するには、「BlueLinQ サーバの追加」(p.1-28) をご参照ください。

### パッケージリストのリフレッシュ

[Settings] メニューで BlueLinQ サーバを追加するときに、Sun Cobalt コントロールステーションが、入手できるパッケージファイルのリストを更新するために BlueLinQ サーバに問い合わせる頻度を設定できます。

「リフレッシュ」機能を使うと、コントロールステーションによってただちに BlueLinQ サーバを問い合わせ、リストを更新することもできます。

各パッケージの情報は BlueLinQ サーバに保存されます。異なる 2 台の BlueLinQ サーバ上に同一のパッケージが見つかった場合、Package Management のリストにはコントロールステーションが最後にチェックした BlueLinQ サーバにあるパッケージが表示されます。[Repository] 欄にパッケージの保存先が表示されます。

入手できるパッケージファイルのリストをリフレッシュするには、次の操作を行います。

1. [Control Modules] > [Software Management] > [Settings] を選びます。[BlueLinQ Server Settings] テーブルが表示されます。
2. テーブルの上にある [Refresh] ボタンをクリックします。[Task Progress] テーブルが表示されます。

このテーブルの [Status] フィールドには、タスクの現在の状態と進行状況バーが表示されます。進行状況バーが 100% を示すと、パッケージファイルのリストの更新操作が完了したことを意味します。

パッケージファイルのダウンロードに関連したイベントのリストを表示するには、進行状況バーの下にある [View Events] ボタンをクリックします。[Events for <task>] テーブルが表示されます。

入手できるパッケージファイルの更新済みリストを表示するには、進行状況バーの下にある [Done] ボタンをクリックします。[Package Management] テーブルが表示されます。

## BlueLinQ Server Settings - Basic

[BlueLinQ Server Settings] テーブルの右上には [Basic] と [Server] の2つのタブが表示されます。表示中のセクションはタブが薄いグレーで表示されます。

[BlueLinQ Server Settings - Basic] テーブルには、Software Management モジュールで設定した BlueLinQ サーバが表示されます。Software Management モジュールは、これらのサーバから入手できるすべてのパッケージファイルを表示します。









**ご参考：** BlueLinQ サーバのホスト名は、Sun Cobalt コントロールステーションがアクセスするドメインネームシステム (DNS) サーバによって認識できるものでなければなりません。

コントロールステーションの DNS サーバの設定については、「管理者マニュアル」PDF ファイルの「TCP/IP」をご参照ください。

テーブルには次の4つの欄があります (図 10 参照)。

- **Name：** BlueLinQ サーバ名
- **Address：** BlueLinQ サーバのホスト名
- **Description (省略可)：** BlueLinQ サーバの内容説明
- **Action：** BlueLinQ サーバの設定変更や削除

図 10 BlueLinQ Server Settings - Basic テーブル

BlueLinQ Server Settings			
			Basic Server
Add Refresh		3 Entries	
Name ▼	Address ▼	Description	Action
devbluelinq	http://devbluelinq.sfbay.sun.com/packages/		 
eastcoast	http://192.168.10.10/packages/		 
westcoast	http://developer.yueiop.com/packages/		 

サーバのリストは、BlueLinQ サーバ名または URL アドレスで、昇順または降順にソートできます。

昇順とは低い値から高い値に向かう順番です (例：A から Z、1 から 9)。降順とは高い値から低い値に向かう順番です (例：Z から A、9 から 1)。デフォルトでは、[BlueLinQ Server Settings - Basic] テーブルはサーバ名の昇順に並んでいます。

ソート条件の欄には、上向きまたは下向きの緑色の三角形のアイコン (昇順の場合は下向き、降順の場合は上向き) が表示されます。ソート条件でない欄の見出しには白抜ききの三角形のアイコンが付きます。これはその欄の順序がランダムであることを意味します。

### Action 欄

BlueLinQ サーバを追加すると、サーバ管理者はそのサーバにいくつかの操作を行うことができます。操作の種類は [BlueLinQ Server Settings - Basic] テーブルの [Action] 欄に表示されます。以下の操作について次に説明します。

- BlueLinQ サーバの変更
- BlueLinQ サーバの削除

## BlueLinQ サーバの追加



ご参考： BlueLinQ サーバの追加時に、特定の BlueLinQ サーバを HTTP および FTP 検索するためのプロキシ：ポート設定を指定できます。これにより、1 台の Sun Cobalt コントロールステーションをファイヤウォール内部に、もう 1 台をファイヤウォール外部に設置できます。

BlueLinQ サーバを Software Management モジュールに追加するには、次の操作を行います。

1. [Control Modules] > [Software Management] > [Settings] を選びます。[BlueLinQ Server Settings - Basic] テーブルが表示されます。
2. テーブルの上にある [Add] ボタンをクリックします。[Add a BlueLinQ Server] テーブルが表示されます (図 11 参照)。
3. 以下のフィールドに情報を入力します。
  - **Server Name**： BlueLinQ サーバ名を入力します。
  - **BlueLinQ Server**： サーバの URL を入力します。  
有効なエントリ例：http://updates.cobalt.com/packages/。
  - **Description (optional)**： この BlueLinQ サーバに関する簡単な説明を記入します。説明は 255 文字以内で  
ご記入ください。
  - **HTTP proxy:Port (optional)**： プロキシサーバを介してファイヤウォール外部の BlueLinQ サーバへアクセス  
する必要がある場合には、HTTP 検索用のプロキシサーバとポート番号を入力します。  
有効なエントリ例：proxy.mycompany.com:8080。
  - **FTP proxy:Port (optional)**： プロキシサーバを介してファイヤウォール外部の BlueLinQ サーバへアクセス  
する必要がある場合には、FTP 検索用のプロキシサーバとポート番号を入力します。  
有効なエントリ例：proxy.mycompany.com:8080。
4. [Save] ボタンをクリックします。[BlueLinQ Server Settings - Basic] テーブルに、新しいサーバが追加表示  
されます。サーバは、サーバ名の昇順に並んでいます。

新規追加された BlueLinQ サーバから入手できるパッケージファイルを表示するには、テーブルの上にある [Refresh] ボタンをクリックします。詳細については、「パッケージリストのリフレッシュ」(p.1-26) をご参照ください。

図 11 Add a BlueLinQ Server テーブル

Add a BlueLinQ Server	
ServerName	<input type="text"/>
ServerUrl	<input type="text"/>
Description (optional)	<input type="text"/>
HTTP proxy:Port (optional)	<input type="text"/>
FTP proxy:Port (optional)	<input type="text"/>



## BlueLinQ サーバの変更

BlueLinQ サーバを変更するには、次の操作を行います。

1. [Control Modules] > [Software Management] > [Settings] を選びます。[BlueLinQ Server Settings - Basic] テーブルが表示されます。
2. 変更したいサーバをテーブルから選びます。
3. [Action] 欄にある緑色の鉛筆アイコンをクリックします。[Modify BlueLinQ Server] テーブルが表示されます。
4. サーバ名、サーバの URL、サーバの内容説明、HTTP プロキシ：ポート、FTP プロキシ：ポートなどを変更できます。サーバの内容説明、HTTP プロキシ：ポート、FTP プロキシ：ポートフィールドは省略可能です。
5. [Save] ボタンをクリックします。[BlueLinQ Server Settings - Basic] テーブルに、変更されたサーバ情報が表示されます。

## BlueLinQ サーバの削除

Software Management モジュールから BlueLinQ サーバを削除すると、そのサーバから入手可能だった全パッケージファイルが [Package Management] テーブルから即座に削除されます。

サーバからローカルリポジトリにダウンロードされたパッケージファイルは依然として入手可能で、リストにも表示されます。

BlueLinQ サーバを削除するには、次の操作を行います。

1. [Control Modules] > [Software Management] > [Settings] を選びます。[BlueLinQ Server Settings - Basic] テーブルが表示されます。
2. 削除したいサーバをテーブルから選びます。
3. [Action] 欄にある茶色のゴミ箱アイコンをクリックします。[Confirm Removal of Server] テーブルに、削除の確認を求めるメッセージが表示されます。
4. [Remove] ボタンをクリックします。[BlueLinQ Server Settings - Basic] テーブルに、更新された情報が表示されます。

## BlueLinQ server settings - Server

[BlueLinQ Server Settings] テーブルの右上には [Basic] と [Server] の2つのタブが表示されます。表示中のセクションはタブが薄いグレーで表示されます (図 12 参照)。



**ご参考：** この画面で指定した設定は、[Basic] タブにリストされるすべての BlueLinQ サーバに適用されます。

[BlueLinQ Server Settings - Server] テーブルには次のフィールドが表示されます。

- **Query Interval:** 新規のソフトウェアやアップデートのパッケージファイルが入手可能かどうかを、Sun Cobalt コントロールステーションサーバが BlueLinQ サーバへ問い合わせる頻度を指定します。daily, weekly, monthly, never から1つ選びます。

デフォルトの間隔は「daily」で、問い合わせは午前 03:23 に行われます。

- **Automatically Download Packages:** このチェックボックスにチェックマークを付けると、入手できるパッケージファイルは、Sun Cobalt コントロールステーションのローカルリポジトリに自動的にダウンロードされます。
- **Software Notification Light:** 新規のソフトウェアやアップデートが見つかった場合に、ここで指定する種類のファイルに関してのみ「ソフトウェア通知ライト」が点灯し、「電子メール」が送信されます。

「All software」または「Updates only」のどちらかを選びます。

- **Notification Emails (optional):** 新規のソフトウェアパッケージやアップデートが見つかった場合、または問い合わせ時にエラーが発生した場合に通知する電子メールアドレスを指定します。電子メールによる通知は、「Software Notification Light」の指定に応じて送信されます。

電子メールによる通知を希望しない場合には、このフィールドを空欄のまま残してください。

[Server] セクションの設定は、次の手順で行います。

1. [Control Modules] > [Software Management] > [Settings] を選びます。[BlueLinQ Server Settings - Basic] テーブルが表示されます。
2. 右上隅の [Server] タブをクリックします。[BlueLinQ Server Settings - Server] テーブルが表示されます。
3. 該当フィールドに必要な事項を入力します。
4. [Save] ボタンをクリックします。[BlueLinQ Server Settings - Server] テーブルがリフレッシュされ、更新された情報が表示されます。

図 12 BlueLinQ Server Settings - Server テーブル

BlueLinQ Server Settings	
Basic Server	
QueryInterval	Daily
AutomaticallyDownload Packages.	<input type="checkbox"/>
Software Notification Light	All Software
Notification Emails (optional)	

Save Cancel

## 一般的情報

### 進行状況バー

タスクを開始する（たとえば、サーバにパッケージファイルをインストールしたり、新規パッケージファイルをパブリッシュする）と、サーバデスクトップユーザインターフェイス（UI）に [Task Progress] テーブルが表示されます。このテーブルの [Status] フィールドには、タスクの現在の状態と進行状況バーが表示されます。進行状況バーが 100% を示すと、タスクが完了したことを意味します。

現在のタスクの進行中に UI で別のタスクを実行したい場合には、進行状況バーをバックグラウンドに移すことができます。その際には、進行状況バーの下にある [Put in background] ボタンをクリックしてください。

進行状況バーに戻るには、画面左の [Administer] > [Tasks] をお選びください。[Task] テーブルが表示されます。まだタスクが実行中の場合には、[Duration] 欄に進行状況メッセージが表示されます。このタスクの進行状況バーを再表示するには、この欄にある [進行状況バー] アイコンをクリックしてください。

タスクが完了して、進行状況バーが 100% に達すると、[Task Progress] テーブルの下に [Done] と [View Events] の 2 個のボタンが表示されます。

- 完了したタスクに関連するイベントのリストを表示するには、[View Events] ボタンをクリックします。[Events for <task>] テーブルが表示されます。
- 前の画面に戻るには、進行状況バーの下にある [Done] ボタンをクリックします。

### Schedule

スケジュール機能（スケジューラとも呼ばれる）を使うと、特定のタスクを特定の日時に実行するためのスケジュールを作成できます。

Sun Cobalt コントロールステーション上のタスクの多くは、スケジュールを作成できます。スケジュールを作成できる場合には、[Schedule] ボタンがテーブルまたは最終ステップのセレクトウインドウに表示されます。

タスクのスケジュールは、各タスクにつき次の手順で作成します。

- タスクに関する必要事項を各フィールドに記入します。
- [Schedule] ボタンをクリックします。[Schedule Settings for <task>] テーブルが表示されます。
- スケジュールを作成したいタスクについて、以下の項目を設定します。
  - Run date** : プルダウンメニューを使って、タスクを実行する日付を指定します。
  - Run time** : プルダウンメニューを使って、タスクを実行する時刻を指定します。
  - Email address (optional)** : タスクの実行時に通知する電子メールアドレスの宛先を指定します。
  - Notify when starting** : このチェックボックスにチェックマークを付けると、タスクの開始時に、指定したアドレス宛に電子メールが送信されます。
  - Notify when finished** : このチェックボックスにチェックマークを付けると、タスクの終了時に、指定したアドレス宛に電子メールが送信されます。
- 一部の機能については、テーブルの上にあるプルダウンメニューからタスクの実行頻度（hourly または daily など）を設定できます。
- [Save] または [Cancel] ボタンをクリックします。

[Cancel] ボタンをクリックすると、スケジュールされたタスクは保存されません。[Scheduled Tasks] テーブルが表示されますが、キャンセルしたタスクは表示されません。

[Save] ボタンをクリックすると、新しくスケジュールされたタスクが、スケジュールされたタスクのリストに追加されます。[Scheduled Tasks] テーブルが表示され、新しいタスクも表示されます。

- このテーブルからは、スケジュールされたタスクの詳細を表示したり、タスクの修正や削除も行えます。

図 13 にスケジューラテーブルの例を示します。

図 13 「スケジューラ」テーブル

Schedule Settings for Installing Package(s) Task	
Run date	May 8 2002
Run time	4 : 47 PM
Notification	
Email address (optional)	<input type="text"/>
Notify when starting	<input type="checkbox"/>
Notify when finished	<input type="checkbox"/>

## 依存性チェック

[Install a Package File] タスクを開始すると、Sun Cobalt コントロールステーションは、まず最初に、指定したサーバで依存性チェックを実行し、指定したパッケージファイルをインストールできるかどうかを確認します。この操作では、次の3点について確認します。

- 指定したパッケージファイルをインストールする前に、別のパッケージファイルが必要かどうか  
別のファイルが必要な場合、該当する必要なパッケージファイルがコントロールステーションで入手可能ならば、必要なファイルをインストールしてから、指定したパッケージファイルがインストールされます。
- 指定したパッケージファイルがそのサーバに対して最新バージョンかどうか
- 指定したパッケージファイルがそのサーバにインストールされていないか

コントロールステーションに、インストールタスクを続行するか、キャンセルするかを確認する画面が表示されます。

インストールタスクは、全て成功するか全て失敗するかのどちらかになります。成功の場合には、全てのパッケージファイルが指定されたサーバ全部にインストールされます。Sun Cobalt コントロールステーションが解決できないパッケージファイル依存性の問題が1つでもあると(赤の動作状況)、インストールタスクはまったく実行されません。

### 動作状況を示す色

確認画面の上部には、[Patch Install Status] テーブルが表示されます。

このテーブルには、インストールタスクの全体的な動作状況が丸いボタンの色で表示されます。インストールタスクのコンポーネントに1つでも黄の動作状況がある場合には、インストールタスクの全体的な動作状況は黄で表示されます。コンポーネントに1つでも赤の動作状況がある場合には、全体的な動作状況は赤で表示されます。

動作状況を示す色は次の通りです。

- **緑**： 依存性に問題はなく、サーバにパッケージファイルをインストールできます。
- **黄**： サーバにインストールしたいパッケージファイルには、解決可能な依存性の問題が少なくとも1つあります。インストールタスクは継続可能です。コントロールステーションは、サーバに必要なパッケージファイルを最初にインストールして依存性の問題を解決してから、指定されたパッケージファイルをインストールします。
- **赤**： 指定したパッケージファイルには、コントロールステーションが解決できない依存性の問題が少なくとも1つあります。動作状況が赤の場合には、インストールタスクは継続できません。

動作状況が黄または赤の場合には、[Patch Install Status] テーブルの下に表示される [Install Information by Appliance] または [Install Information by Patch] テーブルで必ず詳細を表示してください。

図 14、図 15、図 16、図 17 に、確認画面に表示された依存性チェックの結果の例を示します。

## Install Information by Appliance テーブル

[Install Information by Appliance] テーブルはデフォルトで表示されます。図 14 に例を示します。このテーブルには次の5つの欄が表示されます。

- **Install Status**： 色で示したサーバのインストールタスクの動作状況。
- **Comment**： 依存性の問題に関するコメント。
- **Client IP**： パッケージファイルをインストールするサーバの IP アドレス。
- **Number of Pkgs**： サーバにインストールするパッケージファイルの数。
- **Details**： サーバにインストールするパッケージファイルを表示したり、一括インストール操作からサーバを削除できます。

インストールするパッケージファイルを表示すると、もう1つ別の情報テーブルが表示されます。このテーブルにあるアイコンをクリックすると、パッケージファイルに関する全情報を表示できます。

管理下にあるサーバが1台でも赤の動作状態、つまり、コントロールステーションが解決できない依存性の問題がある場合には、そのサーバを削除すれば、インストールタスクを続行できます。

## Install Information by Patch テーブル

[Install Information by Patch] テーブルを表示するには、画面上のプルダウンメニューから [View by Patches] を選びます。図 15 にテーブルの例を示します。このテーブルには次の5つの欄が表示されます。

- **Install Status**： 色で示したパッケージファイルのインストールタスクの動作状況。
- **Package Name**： パッケージファイル名。
- **Version**： パッケージのバージョン。
- **Number of Appliances**： パッケージファイルをインストールするサーバの数。
- **Details**： パッケージファイルをインストールするサーバを表示したり、パッケージファイルの情報を表示できます。

指定したサーバがすべて赤の動作状況になっている場合には、このテーブルから、単一のパッケージファイルによってすべてのサーバに依存性の問題が発生しているのかどうかを特定できます。

## Install または Schedule

インストールタスクを続行する場合、パッケージファイルを今すぐインストールするか、あとでインストールするスケジュールを作成するかを選べます。

- [Install] ボタンをクリックすると、進行状況バーが表示されます。詳細については、「進行状況バー」(p.1-31)をご参照ください。
- [Schedule] ボタンをクリックすると、スケジューラ画面が表示されます。詳細については、「Schedule」(p.1-31)をご参照ください。

図 14 「緑のインストール動作状況（サーバ別）」テーブル

Select View... ▾

Patch Install Status	
Recommended Action	
Recommended Action	Install OK -- Click Install Button to start Install immediately or the Schedule button to schedule install at later time.

Install Schedule Back

Install Information by Appliance				
2 Entries				
Install Status	Comment ▼	Client IP ▼	Number of Pkgs	Details
	Install OK as specified	10.9.23.226	9	
	Install OK as specified	10.9.23.188	9	

Key: ● Normal  
● Problem  
● Severe Problem

図 15 「緑のインストール動作状況（パッチ別）」テーブル

Select View... ▾

Patch Install Status	
Recommended Action	
Recommended Action	Install OK -- Click Install Button to start Install immediately or the Schedule button to schedule install at later time.


Install Schedule Back




Install Information by Patch				
9 Entries				
Install Status ▼	Package Name ▼	Version ▼	Number Appliances	Details
	Sun Cobalt OS	v6.4	2	
	Cobalt OS	v6.1	2	
	Qube3 All System 1.0.1-9819	v1.0	2	
	Cobalt OS	v6.2	2	
	Qube 3 UserManual	v1.0	2	
	Qube 3 UserManual	v1.0	2	
	Qube 3 UserManual	v1.0	2	
	Qube3-m1-Update-3.0	v6.3	2	
	Qube3-All-Security-2.0.1-8061	v1.0	2	







Key: ● Normal  
● Problem  
● Severe Problem

図 16 「黄のインストール動作状況」テーブル

Select View... ▾

Patch Install Status	
Recommended Action	
Recommended Action	Install Warning -- Packages were added/Deleted on one ore more appliances, check details before installing


Install Information by Appliance				
2 Entries				
Install Status	Comment ▾	Client IP ▾	Number of Pkgs	Details
	Install OK as specified	10.9.32.140	5	 
	Install OK with Packages Added/Deleted for DependencyIssues	10.9.32.141	5	 




Key:













- Normal
- Problem
- Severe Problem

図 17 「赤のインストール動作状況」テーブル

Select View... ▾

Patch Install Status	
Recommended Action	
Recommended Action	Unable to Install Packages Due to Dependency Issues

Install Information by Appliance				
4 Entries				
Install Status	Comment ▾	Client IP ▾	Number of Pkgs	Details
	Failure to Satisfy Package Dependencies to Install	10.9.23.226	24	 
	Failure to Satisfy Package Dependencies to Install	10.9.23.188	24	 
	Install OK as specified	10.9.32.140	6	 
	Install OK with Packages Added/Deleted for DependencyIssues	10.9.32.141	6	 

Key:

- Normal
- Problem
- Severe Problem